四季薫り、心通う“ふるさと”伊賀市

そうぞ村通信

https://noringyo.or.jp/

2021年3月1日号

発行／一般社団法人大山田農林業公社
〒518-1422　三重県伊賀市平田１０３番地
TEL：0595-47-0151　FAX：0595-47-0244
Eメール：ohyamada@ict.ne.jp

春から始める 親子で天体観測

春は新しい趣味を始めるには絶好のタイミングです。今回は伊賀市内の小学校に通う琥惺君とお母さんに、自宅にある望遠鏡を使って、天体観測に挑戦してもらいました。クリスマスにプレゼントしてもらった望遠鏡。琥惺君とお母さんは、上手に観察できるようになったのでしょうか。

なぜ見えないの？

これまで琥惺君は望遠鏡で月や星を観察しようと試みましたが、星が捉えられなかったり、ピントが合わせられなかったりして上手く観察できませんでした。

そこで、大山田農林業公社の事務局長で天体観測に詳しい、川島潤さんに教えてもらうことにしました。

まず、川島さんは望遠鏡の本体にあたる「主鏡」と、横についている低倍率の「ファインダー」の位置関係を確認しました。すると主鏡とファインダーが平行になっていないことがわかり、固定ネジをまわしながら調節してくれました。

次に、川島さんはファインダーを覗きながら、遠くにある木を十字線の中央に収まるように三脚を調整。さらに、主鏡を覗きながらピントを調節しました。

川島さんは「この準備作業は、明るい時間帯ににやっておくと、スムーズにできます」とアドバイスしました。

▲ファインダーの中は、風景が反転して見えます。

スマホで撮影も

日没後、望遠鏡を屋外にセッティングして、さっそく天体観測を開始しました。

三脚のセッティングはお母さんもお手伝い。この日は「上弦の月」がよく見えたので、琥惺君はファインダーを覗きながら望遠鏡を月の向きに合わせました。

レンズに大きく映った月を見て琥惺君は「クレーターまでしっかり見える」と大喜び。お母さんも「設定をきちんとすれば、こんなに奇麗に見えるんですね」と驚いていた。

川島さんは、初観測の記念として、望遠鏡にスマートフォンを近づけて接写した月の写真をプレゼント。「観察が比較的簡単な月から始めて、シリウスなど明るい星の観察にもチャレンジしてほしい」と話しました。

▶スマホを望遠鏡に近づけると接写ができます。

好評発売中

防獣ライト
ししおったまげ！
独自開発の青色発光LEDが点滅
問い合わせは、大山田農林業公社（0595-41-0151）へ。

マジ怖い…